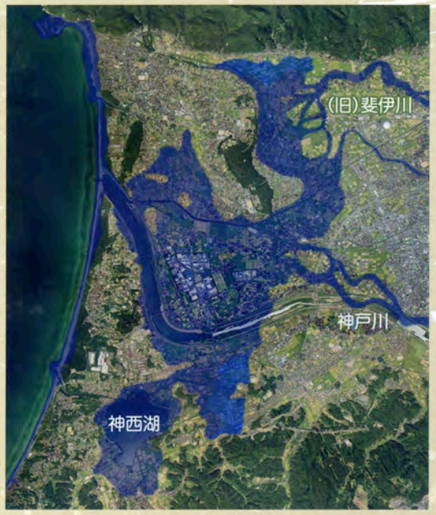
神門郡

「神門を負う」と記された氏族“神門臣”が住まう土地

神門水海 ⑮

神西湖周辺（湖陵町～大社町）

かつて、薗の長浜の東に広がっていた広大な湖。神戸川はもちろん、当時西流していた斐伊川もここに注いでいた。現在、その名残は神西湖に限られているが、各種の調査によりかつての水域が復元されている。
右図は2,000年前の神門水海。風土記の時代もほぼ同規模だったろう。



神門郡家 ⑯

古志本郷遺跡（古志町）

郡役所の中心である「正庁（せいちょう）」と呼べる建物の跡が見つかった、出雲国内でも数少ない郡家の遺跡。

朝山六神山 ⑰

※宇比多伎山は江戸時代につけられた名前。古い写本になく、由来には諸説ある。

朝山町の山々

「オオクニヌシが毎朝女神のもとへ通った」ことにちなむ朝山郷。その小盆地を取り囲む独特な山容は、次のように神に結び付けられた。

- 宇比多伎（ういたき）山※＝神の宮
- 稲積山＝積み上った稲束
- 稲山＝神が食す稲
- 陰山＝髪飾り
- 桙（ほこ）山＝ホコ
- 冠（かがふり）山＝かぶり物

土椋峰 ⑱

大袋山（稗原町～所原町）

標高356m。平らな山頂は、風土記に記された最南端の烽の跡とされる。軍事に関する情報を雲南方面へ伝える拠点であった。

吉栗山 ⑲

佐田町一窪田付近

出雲大社の造営にこの山から切り出されたヒノキやスギが使われたとある。材木は神戸川の流れにのって運ばれたようだ。

飯石郡

土地神イビシツベが鎮座する地 飯石

大須佐田・小須佐田 ⑳

佐田町須佐付近

スサノオが御魂（みたま）をしずめ、大小の田を定めた、という須佐の地。「須佐の男（お）」に愛された美しい風景が山間に広がる。

さらに詳しく知りたい方は…『出雲国風土記』解説本

◆とにかく色々知りたい!!

『解説 出雲国風土記』
……（島根県古代文化センター　編）

『出雲国風土記註論』
……（関　和彦　著）

『出雲国風土記参究』
……（加藤義成　著）

◆原文も読みたい!!

『出雲国風土記』
……（沖森卓也ほか　著）

『出雲国風土記』講談社学術文庫
……（荻原千鶴　著）

◆こども向け解説

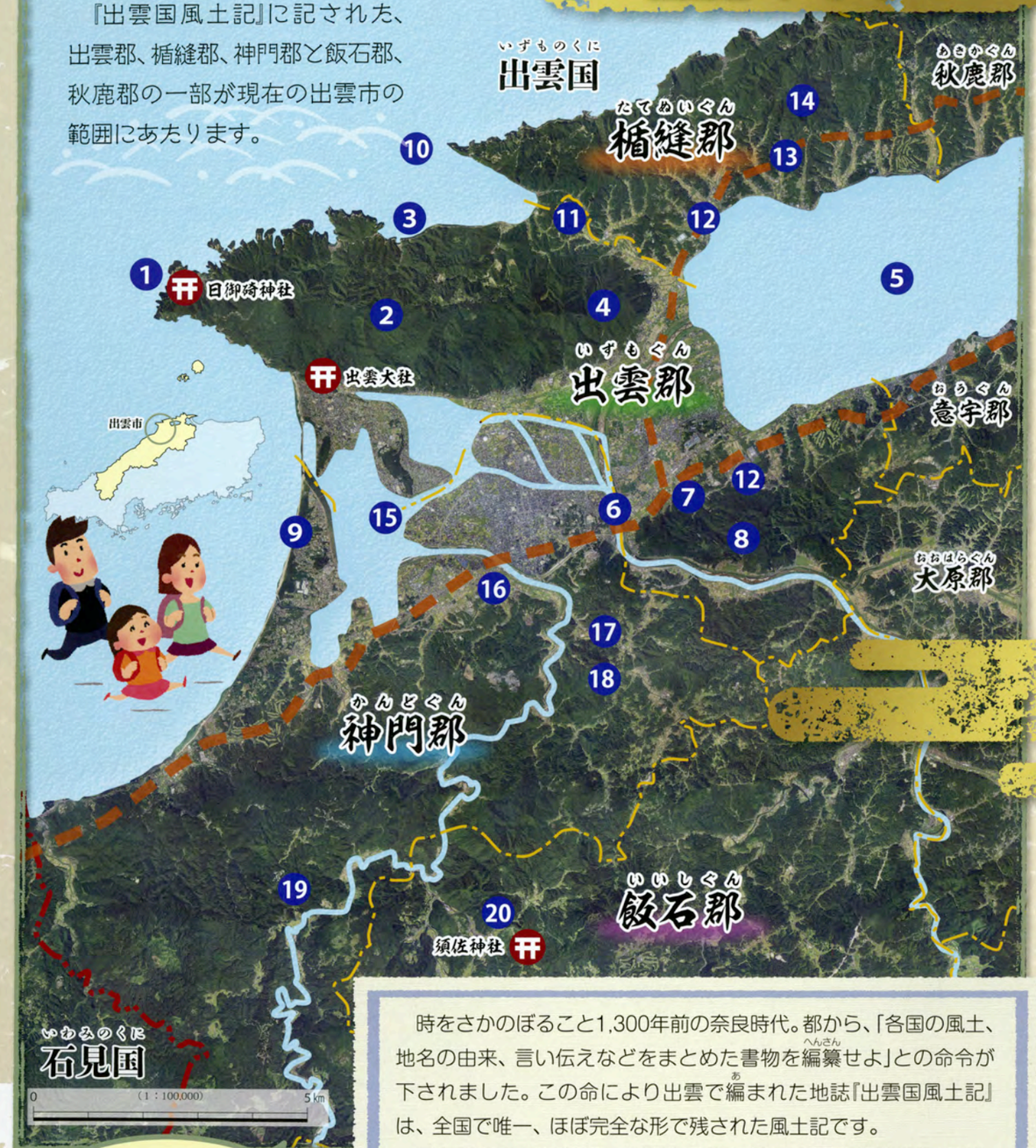
『こども出雲国風土記』
……（川島芙美子　著）

お問い合わせ
出雲市文化財課　TEL（0853）21-6893

平成29年（2017）3月作成

厳選！出雲国風土記（いずものくにふどき）探訪マップ

『出雲国風土記』に記された、出雲郡、楯縫郡、神門郡と飯石郡、秋鹿郡の一部が現在の出雲市の範囲にあたります。



現在の出雲市を空から見た写真に『出雲国風土記』の時代の水域や川の流域を重ねたものです。

時をさかのぼること1,300年前の奈良時代。都から、「各国の風土、地名の由来、言い伝えなどをまとめた書物を編纂（へんさん）せよ」との命令が下されました。この命により出雲で編（あ）まれた地誌『出雲国風土記』は、全国で唯一、ほぼ完全な形で残された風土記です。

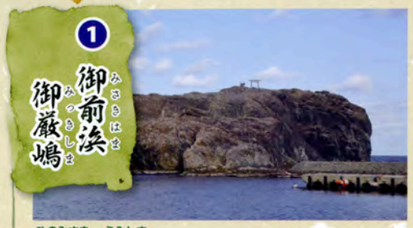
風土記に記された文字から浮かび上がる、奈良時代の出雲の姿。その多くは、今も出雲市内に残されています。「1,300年前のガイドブック」を片手に、いにしえの出雲を見つける旅に出かけましょう！

出雲市

厳選！出雲国風土記 探訪マップ

出雲郡 「八雲立つ」出雲 国引き神話の舞台のひとつ

① 御前浜 御厳嶋



日御碕・経島（大社町日御碕）

日御碕神社前の沖に浮かぶ経島には、春になると数千羽のウミネコが繁殖（はんしょく）のため集う。

② 出雲 御崎山

北山山系

「国引き神話」で最初に引き寄せられた山塊「支豆支の御埼（きづきのみさき）」。周囲には多くの神社が鎮座する。

ビューポイント！ からさで大橋

③ 井呑浜と「黄泉の坂」

猪目海岸と猪目洞窟（猪目町）

風土記に記された言い伝えでは、「夢に見ると死ぬ」とされる。当時の「あの世」の世界を感じられる場所だ。

④ 多夫志烽

旅伏山山頂（国富町）

標高456m。出雲御崎山の東端にある。「旅伏山」の山名は、頂上に烽（とぶひ）がおかれたことに由来する。

⑤ 入海

宍道湖

宍道湖から中海にかけて広がる入海は、今より広い水域だった（右図）。多くの生命を育む水辺として紹介される。

入海の水域変化

⑥ 出雲大川

斐伊川

『古事記』『日本書紀』の出雲神話に登場するヤマタノオロチのモデルとされる。風土記では、豊かな流域の様子が伝えられる。

ビューポイント！ からさで大橋

⑦ 出雲郡家

発見された正倉跡

後谷遺跡周辺（斐川町出西付近）

出雲郡家に付属する倉庫、正倉（しょうそう）跡が見つかった。この近くに、まだ見ぬ役所跡が眠っているはずだ。

⑧ 神名火山

仏経山（斐川町神氷）

神の社が坐（いま）す山はいくつかあるが、宍道湖を囲む四山だけが「かんなび」という名を持つ。標高366mの仏経山は南西のかんなび山。

⑨ 薗の長浜

長浜海岸（大社町～多伎町）

出雲平野の西側に広がる長い砂浜で、国引きの綱として登場する。北の奉納山から眺めると、神話の世界が目前に広がる。

ビューポイント！ 奉納山公園

厳選！出雲国風土記 探訪マップ

楯縫郡 神の楯を縫い奉る場所

⑩ 出雲郡・楯縫郡の海岸地形

日御碕・御這田の浜付近

十六島（うっぷるい）湾

出雲郡・楯縫郡の海岸地形

出雲郡から楯縫郡の海岸線は、浜や浦、島々が複雑に入り組む。日本海の荒波が生み出した地形はまさに神業（かみわざ）。風土記では、それぞれの広さや特徴を解説し、今と変わらぬ当時の情景を伝える。

⑪ 去豆の折絶

平田～北浜の地溝帯

国引きされた「支豆支の御埼」と「狭田国（さだのくに）」の境。東西を山に挟まれた谷筋は、土地のつなぎ目そのものだ。

⑫ 古代山陰道

調査中の古代山陰道（杉沢遺跡）

出雲国の古代官道（山陰道）推定ルート

古代山陰道（杉沢遺跡（斐川町直江）ほか）

奈良時代、都と各地を結ぶ7つの官道（今のハイウェイ）が造られた。出雲国を通る官道「山陰道」は、今の京都北部から日本海沿いを進む道。風土記には、国内を通る道が詳しく記されている。

近年、出雲市内でも道の跡が見つかり、当時の道路事情がわかりつつある。

⑬ 楯縫郡家

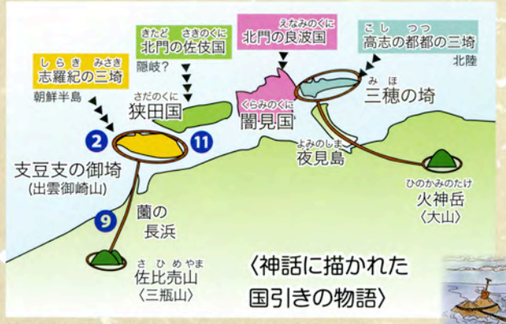
多久谷町灘付近

楯縫郡家の跡は今も未発見。その推定地は、南北にかんなび山、西に出雲御崎山をのぞむ、開けた場所だ。

⑭ 神名樋山

大船山（多久町）

楯縫郡のかんなび山（標高327m）。山頂付近の石神に祈れば、必ず雨を降らせてくれるという。



【国引き神話ゆかりの地】

- ② 出雲御崎山　最初に引き寄せた土地
- ⑪ 去豆の折絶　土地のつなぎ目
- ⑨ 薗の長浜　土地を引き、つなぐための綱
- 佐比売山（三瓶山）　綱を結ぶための杭

風土記の冒頭を飾る「国引き神話」。巨大な神・ヤツカミツオミツヌが海の向こうから4つの国の余りに綱を掛け、引き寄せて国土を広げたという壮大な神話だ。出雲市内には、右のような「国引き神話」ゆかりの地がある。

〈ヤツカミツオミツヌの国引き〉

まめ知識

出雲国 いずものくに
現在の島根県東部地域。9つの郡（意宇、島根、秋鹿、楯縫、出雲、神門、飯石、大原、仁多）があり、出雲市は楯縫・出雲・神門郡と飯石郡・秋鹿郡の一部からなる。

『出雲国風土記』 いずものくにふどき
天平5年（733）に完成した出雲国の地誌。当時まとめられた風土記の中で、唯一ほぼ完全に残る。各郡の役人が入念に調べた地名の由来や地理の様子を詳しく説明する。

五畿七道 ごきしちどう
奈良時代、日本列島の国々は都を中心とした五畿（近畿地方の五国）と諸国七道に分けられた。出雲国が属する山陰道は、今の京都府北部、兵庫県北部、鳥取県、島根県の範囲にあった8つの国（丹波・丹後・但馬・因幡・伯耆・出雲・石見・隠岐）からなる。

国府・郡家 こくふ・ぐうけ
奈良時代以降におかれた、各国・郡の役所。国府は今の県庁、郡家は市役所にあたる。出雲国の政治の中心である国府は、意宇郡（松江市大草町一帯）にあった。

烽 とぶひ
軍事用の通信手段・施設。見晴らしのよい山頂で、狼煙（のろし）を上げて情報を伝えた。出雲国内には、意宇郡の暑垣（あつがき）、島根郡の布自枳美（ふじきみ）、出雲郡の多夫志・馬見（まみ）、神門郡の土椋の五烽がある。